



# 生物圏情報学分野

山本博一教授: <http://bis.nenv.k.u-tokyo.ac.jp/>

## こんな問題に取り組んでいます

文化財建造物の約90%が木造です。その約半数は、檜皮、こけら、茅等の植物性材料で屋根が葺かれています。こうした建造物の維持に不可欠な植物性資材、大径材や高品位材・ケヤキ、クリ、マツ等が極端に減少しています。文化財建造物の修理用資材の安定的確保は緊急の課題です。

## こんなことがわかってきました

これまでに、国指定の文化財建造物に使用されている木材の量がおおよそ30万m<sup>3</sup>程度であること、修理間隔と取替率の予想から年間600m<sup>3</sup>の程度の修理用資材が必要となること、製材や加工の歩留まりを勘案すると、樹種や材質等についてさらに詳細な解析が必要であることなどが判りました。

## 研究の成果はこんな分野に活かされます

日本の文化を支えている植物性資源や自然環境の役割を明らかにし、その保全に貢献しています。そして、この文化を支えている技術者組織や資材供給組織を守る幅広い国民運動に発展することが期待されます。

関連展示: 生物圏情報学分野ポスター展示(環境棟5階廊下)  
連絡先: 東京大学 大学院新領域創成科学研究科 自然環境学専攻  
山本博一<yama@k.u-tokyo.ac.jp>



⇐法隆寺金堂  
世界最古の木造建造物



↑木曾ヒノキ天然林  
(樹齢300年以上)



⇐山口県岩国市錦帯橋  
17世紀に 創建された木造  
のアーチ橋